

大子町が「子ども読書の街」モデル自治体に選ばれる

子どもの読書活動を推進するため、文部科学省が平成 19 年度に創設した「子ども読書の街」のモデル自治体到大子町が選ばれました。

全国の各教育委員会から応募があった中から、市町村内すべての小中高生の参加、他のモデルとなる独創性・普遍性などを要件に 10 市町が選ばれました。

大子町は「読書のまち」を宣言し、家庭内での読書推進に積極的に取り組んでいることなどが高く評価されました。

今後の取り組みとして

子どもたちの読書習慣の確立

家庭・地域の読書に対する意識の高揚

地域社会の読書環境の整備

読書を基盤とした人づくり・町づくり

「読書のまち」の良さの全国への発信



を重点項目に掲げ、2 か年計画で「子ども読書の街推進委員会」を設置して、読書講演会の開催、図書館「ブチ・ソフィア」や公民館分館などへの図書購入、貸し出し体制の充実などを図っていきます。

「子ども読書の街」とは

平成 19 年度の文部科学省新規事業で、「読む・調べる」習慣の確立に向けた実践研究に基づき創設されました。

背景には、平成 15 年に実施した生徒の学習到達度調査で明らかになった児童生徒の読解力の低下があります。

この事業がこれまでの読書活動と異なるのは、保護者や地域の方々を巻き込んで読書活動に取り組むという点です。そのモデルとして「子ども読書の街」が創設されました。